

いわき農林水産ニュース

ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」

新生運動ニュース

1月号 発行 平成29年1月26日

目次

- いわき市中央卸売市場 初市式
- 平木材市場「初市」
- いわき地区の試験操業初水揚げ
- 高病原性鳥インフルエンザ対策
- 人・農地プランの説明会
- 直売向けの野菜・花き栽培セミナー
- マコモタケ中華まん完成披露会
- 第3回コンプライアンス研修会
- 農地中間管理事業を活用しましょう
- 【お知らせ】森林の開発について
- 農林水産物モニタリング検査結果
- 6次化商品紹介

いわき市中央卸売市場「初市式」が開催されました



(投げ餅の様子)

1月5日(木)、いわき市中央卸売市場において、平成29年「初市式」が開催されました。初市式は水産部、関連事業者、青果部ごとに行われ、清水敏男いわき市長のあいさつ、蛭田源治いわき市議会副議長の祝辞の後、手締めが行われ、市場の活性化や関係者の益々の発展を祈念しました。

青果部の会場では、投げ餅が行われ、その後、野菜や果物等で盛り付けられた宝船が威勢良く次々と競り落とされ、場内が活気づきました。

また、来場者にはいわき市産のねぎを使ったねぎ汁

が振る舞われ、おいしいと好評を得ていました。

(農業振興普及部)

平木材市場「初市」が開催されました



(森口所長によるあいさつの様子)

1月11日(水)、いわき市内郷綴町の(株)平木材市場において、平成29年「初市」が開催されました。

初市には、買方や荷主など林業・木材関係者など約100名が集まり、(株)平木材市場齋藤公男社長ほかによる新春のあいさつの後、いわき農林事務所森口所長から「県産材の利用拡大と平木材市場の発展、取引の活性化を祈念します」とのあいさつがありました。



(原木せりの様子)

市場内には、年末年始にかけて県内を中心に集められた素材約2,500m³と製材品約1,500m³が所狭しと並べられ、今年最初の競りにかけられました。

良質材が出てくる冬の時期ということもあり、いわき市内をはじめ県内外から集まった買方は、熱心に競りに参加していました。

素材価格は、昨年秋から好調に転じており、今後の山側からの旺盛な出材につながることを期待されます。

(森林林業部)

いわき地区の試験操業初水揚げがありました



(選別風景)

1月12日(木)、久之浜漁港他において、いわき地区試験操業の初水揚げがあり、底びき網船27隻と小型船27隻が出漁し、約6トンの魚介類を水揚げしました。これは昨年初漁の約2倍の数量で、昨年9月以来にヒラメ・マアナゴが新たに試験操業対象種に加わったことが要因となっています。

底びき網船の主な漁獲物はヤナギムシガレイ、ヒラメ、マアナゴ、マガレイでした。ヤナギムシガレイの漁獲量は昨年12月から1操業日あたり1トンを超える水揚げがあり好調で、資源状況が良好と考えられます。

マアナゴの漁獲も好調ですが、活魚槽が無いとため鮮魚出荷のみとなっています。マアナゴの各市場での単価は100円～500円/kg程度と安価であり、単価を向上させるためにも活魚施設の整備が必要となっています。一方、マガレイの漁獲量は季節的に減少してきました。

小型船は釣りのみの操業で、漁獲物はヒラメとメジマグロ(クロマグロ幼魚)でした。メジマグロは本来は秋の漁のため、季節的に漁獲量が減少しており、この日は150kg程度の水揚げに留まりました。

(水産事務所)



(マアナゴ)



(ヒラメ)

高病原性鳥インフルエンザ対策

12月26日（月）、青森県、新潟県での高病原性鳥インフルエンザ発生事案を受けて、いわき農林事務所において、鳥インフルエンザいわき地方連絡会議を開催し、関係機関・団体に対し発生防止対策の周知徹底と情報の共有を図りました。この会議は11月から12月までに4回開催しています。

1月19日（木）現在、高病原性鳥インフルエンザが全国8農場の家きんで発生し、殺処分が行われており、また、県内の野鳥においても陽性反応が確認されるなど、農場においても発生リスクが高まっています。このような状況を踏まえ、いわき農林事務所では、家畜保健衛生所とともに、飼育農家へ発生防止対策を周知徹底するとともに、家きんでの発生に備えた初動防疫対策の体制整備を行っています。

なお、いわき市とJA福島さくら（いわき地区本部）では、12月下旬に家きんを飼養している全農家へ石灰を配付するなど、関係機関・団体が一体となって発生防止対策に取り組んでいます。（農業振興普及部）



（鳥インフルエンザいわき地方連絡会議）



（石灰配付による予防対策）

人・農地プランの説明会を開催しました



（集会所でのプラン説明状況）

12月14日（水）、川部地区において、市、農業振興公社いわき駐在、いわき農林事務所の職員が講師となり、地元農業者15名に対して人・農地プランの説明会を開催しました。人・農地プランは集落営農の設計図で、集落で話し合いながらこれを作成する過程で、地域の担い手と出し手が明確になり、集落の意識の共有を図ることができ、さらにはプランをもとにして農地中間管理機構を活用したスムーズな農地の利用集積が期待されます。

参加者からは「人・農地プラン作成の母体をどうすればよいか」、「担い手にだけ草刈りなどの環境作業をさせるのではなく、貸し手も手伝うことのも取り決めも記入してはどうか」など、多くの質問や意見が出されました。説明会の終了後、集落全員の意向を把握するためのアンケートを取りながら話し合いを進め、プラン作成に向けて活動していくことが了承されました。

この地区以外にいわき市内では、赤井地区、下高久谷地、平泉崎地区など11地区で説明会やプラン作成打合せを開催しています。

※ 人・農地プラン：話し合いにより集落や地区の農業を守り発展させていくため、担い手の確保や農地利用のあり方等について定めた将来ビジョンのこと。（農業振興普及部）

直売向けの野菜・花き栽培セミナーを開催しました

12月14日（水）、ファーマーズマーケットいがっぺにおいて、2名の普及指導員が講師となり、野菜や花きの出荷者を対象とした栽培セミナーを開催しました。

前半は野菜出荷者等30名に対して、農薬の基礎知識や適正使用、使用時の注意点、事故事例に関する講義や使用履歴の記帳実習を行いました。また、後半は花き出荷者等20名に対して、ストックなどの花の病害虫防除や、グラジオラスやケイトウなど夏の有望品目に関する講義を行いました。参加者からは連続出荷可能な品目や農薬使用方法等の質問が寄せられるなど活気あるセミナーとなりました。

今後も、農薬の適正使用の徹底を継続的に周知し、農産物の安全安心の確保に繋げるとともに、切り花の生産者への栽培指導により、直売所を彩る花売り場の品目充実をサポートしていきます。

（農業振興普及部）



（花きに関する講義の様子）



（農薬に関する講義の様子）

マコモタケ中華まん完成披露会が開催されました



（完成した中華まん）

1月16日（月）、JA福島さくらいわき地区渡辺支店において、体験型農産物直売所「彩花園」主催による6次化商品「マコモタケ中華まん」の完成披露試食会が開催されました。当日は、市やJA職員をはじめマスコミ各社も取材に訪れ、関心の高さが伺えました。

本商品は、平成27年度より農村女性活動再生事業を活用して開発に着手し、地元中華料理店「華正樓」の協力を得て、今回、完成の運びとなりました。中華まんには、遠藤夫妻が栽培したマコモタケが具はもちろんのこと、皮にまで使われ

ています。マコモタケは中国等が原産でイネ科植物であるマコモの茎が肥大し可食部となった物で



(紹介する遠藤美喜子氏)

す(販売は、彩花園で毎週水、日曜日)。

す。若いタケノコやアスパラガスの様な食感とトウモロコシの様な甘い香りが特徴です。遠藤夫妻は、まだまだ知名度の低いこの野菜を、生で販売出来ない時期でも多くの人に広めたいとの思いから商品開発に着手しました。

商品を手にとると、若葉パウダーが練り込まれた鮮やかなグリーンの皮が目楽しく、食べてみると餡の中からシャキシャキと心地よい食感のマコモタケを味わう事ができます。試食された方からは、「おいしい」、「食感が良い」などの感想を聞くことができました。

新しいいわきの味として、今後の販売拡大が期待されま

(農業振興普及部)

第3回コンプライアンス研修会を開催しました

12月15日(木)、16日(金)の2日間、今年度第3回となる所属職員を対象としたコンプライアンス研修会を開催しました。

これは、職員の不祥事が続く現状を省みて、不祥事を絶対起こさない、起こさせない職場風土づくりを推進するとともに、年末年始に向けた交通事故防止の徹底を図る目的で実施したものです。

はじめに、総務部副部長から公務員倫理やセクハラ、わいせつ等の不祥事案件を説明し、不祥事防止への意識向上を図りました。その後、交通安全の啓発・意識向上を図るため、交通安全運転のための心構えや事故防止等について説明し、さらに飲酒運転防止等に関するDVDを視聴しました。

これからも、職員一人ひとりが、公私共に法令遵守はもとより、高い倫理観をもって対応できるよう研修を積み重ねていきたいと考えております。

(総務部)

農地中間管理事業を活用しましょう



(渡邊マネージャー)

「農地中間管理事業」とは、県知事が指定した農地中間管理機構が地域内の分散した農地等を借り受け、規模拡大を希望している担い手農家へまとまりのある形で農地を利用できるよう調整し、長期間貸し付ける事業です。

農地中間管理事業は個人でも活用できますが、まずは担い手の明確化や農地利用のあり方等を地域の皆さんで話し合いを重ね、将来の地域ビジョンである「人・農地プラン」を策定し、地域ぐるみで農地中間管理事業を活用することが重要です。

また、一定の条件を満たせば協力金等の助成を受けることも可能ですので、詳しくは下記までお問い合わせください。

問い合わせ先 電話：080-3754-3074 農地中間管理機構いわき推進拠点 渡邊マネージャー

(農業振興普及部)

【お知らせ】 森林の開発について

森林は、水源のかん養、災害の防止、環境の保全などの公益的機能を有しており、国民生活の安定と地域社会の健全な発展に寄与しています。また、これらの森林は一度開発してその機能が破壊されてしまった場合の回復は非常に困難なものとなります。

森林*において、土石の採掘や太陽光発電施設設置などの開発を行おうとする場合は、あらかじめ以下の担当部所へ相談のうえ、手続きを必ず行ってください。違法に開発が行われた場合には、法令に基づき復旧命令や罰則が適用されることがあります。

※手続きが必要な「森林」は知事がたてた磐城地域森林計画で対象としている民有林であり、土地登記等の表記と異なる場合があります。

①1haを超える森林の開発（林地開発許可制度）

いわき農林事務所 森林林業部 林地開発許可制度担当 電話0246-24-6199

②1ha以下の森林開発（伐採届出制度及び小規模林地開発計画）

いわき市役所 林務課 林業振興係 電話0246-22-1181

【参考】

○林地開発許可制度

福島県ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055d/rintikaihatsu.html>

または「林地開発許可 福島県」で検索

◎伐採届出制度

いわき市ホームページ <http://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1001000000984/index.html>

または「伐採届出 いわき市」で検索

◎小規模林地開発計画

いわき市ホームページ <http://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1001000000982/index.html>

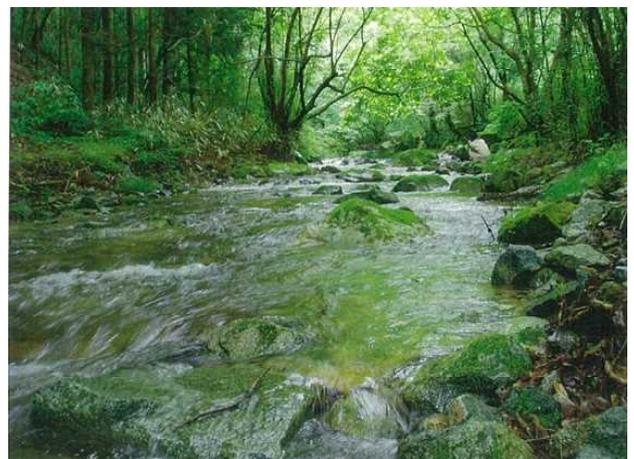
または「小規模林地開発 いわき市」で検索

（森林林業部）

森林が有する公益的機能の例



（土砂崩れを防止する森林）



（水源を育む森林）

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果

□農林畜産物の検査結果

福島県が行った、いわき地方の12月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果（表1）をお知らせします。

検査した8品目29検体のうち、7品目19検体において、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は（表2）のとおりです。

なお、大豆については、2検体に100Bq/kg以下の放射性セシウムが検出されました。内訳は（表3）のとおりです。

12月末現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、（表4）のとおりです。

（企画部）

（表1）農林畜産物の検査結果（12月末現在）

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
7品目	1品目（大豆）			8品目
	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超で検出された検体	
19検体	8検体	2検体	0検体	29検体

（表2）1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

シュンギク1、ギンナン1、キウイフルーツ1、菌床しいたけ（施設）4、菌床なめこ（施設）2、牛肉6、原乳4

（表3）基準値内で検出された品目と検体数

品目	検体数	内 訳	
		100Bq/kg以下	検出限界値以下
大豆	10	2 (6.7~8.9Bq/kg)	8

（表4）出荷制限および出荷自主品目（12月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ
	畜産物	—
出荷自粛	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

□平成28年産米の全量全袋検査結果

平成28年産米の全袋検査は、12月までの検査点数501,629点のうち、99.99%の501,565点が測定機器の測定下限値未満、64点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過したものはありませんでした。

(表) 玄米(平成28年産)検査状況(12月末現在)

測定値区分 (単位: Bq/kg)	測定下限値 未満(<25)	25 ~ 50	51 ~ 75	76 ~ 100	100 以上	計
検査点数(点)	501,565	64	0	0	0	501,629
割合(%)	99.99	0.01	0.00	0.00	0.00	100.00

(1月4日付け 「ふくしまの恵み安全対策協議会」HPにより確認)

調査結果は、「ふくしまの恵み安全対策協議会」放射性物質検査情報で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

(企画部)

□海産魚介類の検査結果

福島県沖(全県)で採取された海産魚介類の放射性セシウム濃度は、時間の経過とともに着実に低下しています。平成28年12月の水産物モニタリング検査では、633検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値(100Bq/kg)を超えたものはありませんでした。

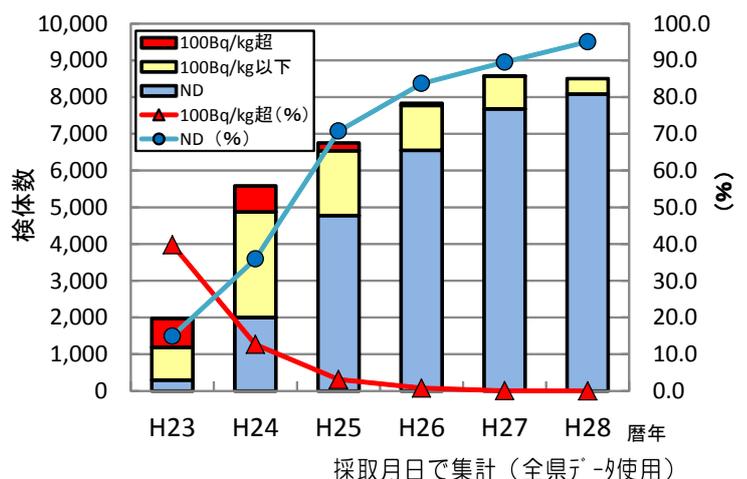
海産魚介類では平成27年4月以降、全県で基準値を超えたものはありません。平成27年7月以降、モニタリング検査で放射性セシウムの不検出割合が9割を超え、平成28年12月末では不検出割合が95.1%となっています。

(水産事務所)

(表・グラフ) 平成23年以降のモニタリング検対数と放射能セシウム検出の割合

年		100Bq/kg 超	100Bq/kg 以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	896	7,677	8,577
	割合(%)	0.05	10.4	89.5	100.0
H28	検体数	0	420	8,082	8,502
	割合(%)	0.00	4.9	95.1	100.0

H28.12.31現在



□試験操業の状況

12月27日（火）に開催された県下漁業協同組合長会議で、いわき市漁協のはえ縄漁業（タラはえ縄を除く）が承認されました。

試験対象種は全94種類で先月同様ですが、新たに平成29年1月17日にイシガレイ、クロウシノシタ、クロソイの3種の出荷制限指示が解除されたため、近々、対象種への追加が行われる見込みです。



(水産事務所)

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された6次化商品をご紹介します



今回は“ふくしま地域産業6次化新商品カタログ”（平成28年3月版）に掲載されている商品の中から韓国村からし屋の商品をご紹介します。

「当店では、韓国産の上質な唐辛子でつくった秘伝の薬味（ヤンニョム）を、厳選した地元野菜に塗りこんでいます。保存料・着色料は一切不使用。昔ながらの製法にこだわり、愛情をこめて手作りしています。韓国の家庭に伝わる本物のキムチをぜひご賞味ください」



韓国キムチ（白菜） 内容量／260g 税込価格／400円

秘伝の薬味（ヤンニョム）を白菜の葉の一枚一枚に丁寧に塗りこみました。からし屋の人気No1商品です。



ねぎキムチ 内容量／130g 税込価格／280円

麺類、納豆、お好み焼き、豆腐料理、味噌汁、たこ焼、卵焼きなどに使えます。あなたのレシピを彩る万能キムチです。

お問い合わせ

韓国村からし屋

いわき市勿来町窪田道作 4-3
TEL・FAX.0246-65-7773

SUNSHINE IWAKI

サンシャイン いわき!

笑顔あふれる
農林業を
めざして!!









福島県いわき農林事務所(平成28年度キャッチフレーズ)

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
 福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
 〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
 (県いわき合同庁舎 3階)
 T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
 U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース